

6月12日（金）2年 當麻寺のひみつ

2年生が、「當麻寺のひみつ」について学習しました。當麻寺の方から、たくさんの興味深いお話を聞かせていただきました。

まず、仁王門にある二体の仁王像について学びました。「阿形（あぎょう）さん」と「吽形（うんぎょう）さん」と呼ばれることや、像の高さが約4メートルもあることを知り、その大きさに驚いていました。また、昔は鮮やかな色が塗られていたことや、像の内部が空洞になっていることなども教えていただきました。

さらに、當麻寺には約1400年の歴史があることや、白鳳時代に作られた国宝の鐘が今も大切に守られていることを学びました。

東塔と西塔の二つの三重塔は、建立当時の姿を今に伝える大変貴重な建物であり、このように二つの塔がそろって残っているのは日本で當麻寺だけだそうです。塔は釘を使わずに建てられており、地震の際にはゆらゆらと揺れながらも元の形に戻る仕組みになっています。その中心にある「真柱（しんばしら）」という構造は、現代の東京スカイツリーにも生かされていることを知りました。

また、国宝である當麻曼荼羅についても学びました。約1300年前、中将姫が織ったと伝えられていることや、當麻寺に伝わる貴重な文化財であることを教えていただきました。

子どもたちは、地域にある當麻寺の歴史や文化にふれ、たくさんの「ひみつ」を知ることができました。ふるさと當麻の素晴らしさを改めて感じる貴重な学習の機会となりました。

